

〈研究ノート〉

美化語についての意識調査報告

徳島市の調査から

森 實 美 和

一般に敬語は尊敬語・謙讓語・丁寧語の三種に分類されるが、その丁寧語とされるもののなかに、相手（聞き手・読み手）への敬語的配慮よりは、話し手（書き手）自身の側の品位を保つためのものがあり、これを特に美化語と呼ぶ。美化語は、普通には「お（ご）十名詞」のかたちをとり、ほかに「いただく」「あげる」などのある種の用法が指摘されているが、この種のものの乱用、氾濫（いわゆる「幼稚園ことば」）が問題にされる一方で、若年層の乱暴な言葉遣いも気になる今日の状況のなかで、美化語がどのような意識で用いられているかを調査してみた。

この調査はアンケート形式を採用し、アンケートを行う対象として小学生ではアンケートの意味が理解されない点を考慮し、中学生以上の男女について行うことにした。また地域が違うと、方言を使うなど言葉遣いも違ってくることを考えて徳島市とその近郊在住の人に限定することにした。そして中学生から七十代まで男性（中学生三十三名、高校生四十二名、大学生五

十二名、三十〜七十代の社会人男性十八名）一五三名、女性（中学生三十四名、高校生八十一名、大学生四十名、三十〜七十代の社会人三十九名）二〇五名計三五八名に実施した。

調査項目（五十語）を決めるにあたっては、柴田武氏の論文『おの付く語、付かない語』を参考にした。柴田氏によれば、「お」が付きにくい語というのは、外来語や三語以上の長い語、語頭に「お」が付く語、悪感情の語、色、自然・鉱物・植物・形・機械工業・組織などを表す言葉である。柴田氏の論を参考にし、選んだ五十語について、美化語として用いられることのあるもので、尊敬語または謙讓語として用いられる文脈を極力避けた項目を作成し、これを被調査者が聞き手の立場で耳にしたとき違和感を感じるか否か、また話し手の立場で使用するか否かを、相手が男女いずれであるかを区別して質問したものである。（図1参照）ただし本調査は世代別の傾向を探ることを主たる目的の一つにしているので、相手が同年代の特別親しくはない場合に限定して考えるように、被調査者に対して要求した。これは一般のアンケートとしてはやや無理のある要求であったかもしれないが、敬語的環境を問題にする場合に、相手の相対的年齢や親疎の判断はきわめて重要な要素となるので、あえて危険に挑んだのである。もちろん、被調査者によっては理解できない場合もあると思われるので、調査時に充分時間をとって説明したが、調査結果の解釈に際しては留意を怠らないよう努めた。

これについての考察は、調査語、被調査者の性別・年齢、想

図1 “美化語についての意識調査”

氏名 男・女 明治・大正・昭和 年生(歳)
職業 出身地 都・道・府・県

あなたと、同年代の、特別に親しいわけではない人と、普通に会話をする場合、下の傍線部のことばを聞いたり、話したりすることがありますか。

あてはまる記号を○でかこんで下さい。

- 〈会話を聞いたとき〉 〈自分が実際に話すとき〉
- a、違和感なし (変に思わない。それでいい) A、使う。
b、違和感がある。 (変だ。おかしい) B、使わない。「 」と言う
C、他の言い方をする。

言 葉	会話を聞いたとき		自分が実際に話すとき	
	相手が男性	相手が女性	相手が男性	相手が女性
1 私が作ったおそば	a b	a b	A B「そば」	C A B「そば」
2 お米を買う	a b	a b	A B「米」	C A B「米」
3 ピアノのおけいこをする	a b	a b	A B「けいこ」	C A B「けいこ」
4 私がお茶を入れる	a b	a b	A B「茶」	C A B「茶」
5 私の手作りのお料理	a b	a b	A B「料理」	C A B「料理」
6 風呂に入る	a b	a b	A B「風呂」	C A B「風呂」
7 私がお電話をする	a b	a b	A B「電話」	C A B「電話」
8 私のおふとん	a b	a b	A B「ふとん」	C A B「ふとん」
9 私が焼いたお菓子	a b	a b	A B「菓子」	C A B「菓子」
10 私と一緒に食事をする	a b	a b	A B「食事」	C A B「食事」
11 今日は天気がいいので洗濯します	a b	a b	A B「洗濯」	C A B「洗濯」
12 私はビールを飲む	a b	a b	A B「ビール」	C A B「ビール」
13 私のお洋服	a b	a b	A B「洋服」	C A B「洋服」
14 お裁縫の時間	a b	a b	A B「裁縫」	C A B「裁縫」
15 今日のお昼は何にしよう	a b	a b	A B「昼」	C A B「昼」
16 私のお小遣い	a b	a b	A B「小遣い」	C A B「小遣い」
17 私のお写真	a b	a b	A B「写真」	C A B「写真」
18 私はお友達と一緒に映画に行く	a b	a b	A B「友達」	C A B「友達」
19 私のお席	a b	a b	A B「席」	C A B「席」
20 そのお店に入る	a b	a b	A B「店」	C A B「店」
21 私は妹のお手伝いをする	a b	a b	A B「手伝い」	C A B「手伝い」
22 お水を一杯飲む	a b	a b	A B「水」	C A B「水」
23 今日はお鍋にしよう	a b	a b	A B「鍋」	C A B「鍋」
24 私の家の引き越し	a b	a b	A B「引越し」	C A B「引越し」
25 お菓子を飲む	a b	a b	A B「菓」	C A B「菓」
26 私の旅行のお荷物	a b	a b	A B「荷物」	C A B「荷物」
27 私の作ったケーキのお味見をする	a b	a b	A B「味見」	C A B「味見」
28 私がお餅を焼く	a b	a b	A B「餅」	C A B「餅」
29 今日のお献立は何にしよう	a b	a b	A B「献立」	C A B「献立」
30 お買い物に行く	a b	a b	A B「買い物」	C A B「買い物」
31 私のお話を聞いて下さい	a b	a b	A B「話」	C A B「話」
32 私の家の二階から手を振ります	a b	a b	A B「二階」	C A B「二階」
33 今日私は、弟にお手紙を、書く	a b	a b	A B「手紙」	C A B「手紙」
34 私は本を読む	a b	a b	A B「本」	C A B「本」
35 私は勉強している	a b	a b	A B「勉強」	C A B「勉強」
36 私のめがね	a b	a b	A B「めがね」	C A B「めがね」
37 私のお部屋	a b	a b	A B「部屋」	C A B「部屋」
38 私のお帽子	a b	a b	A B「帽子」	C A B「帽子」
39 これは私の絵のお道具	a b	a b	A B「道具」	C A B「道具」
40 犬にえさをあげる	a b	a b	A B「やる」	C A B「やる」
41 私の家の庭	a b	a b	A B「庭」	C A B「庭」
42 私が育てたお大根	a b	a b	A B「大根」	C A B「大根」
43 メロンをおいしいたぐ	a b	a b	A B「食べる」	C A B「食べる」
44 私が出勤に出る	a b	a b	A B「勤め」	C A B「勤め」
45 お赤飯を炊く	a b	a b	A B「赤飯」	C A B「赤飯」
46 今日の私のご様子	a b	a b	A B「様子」	C A B「様子」
47 うちの子におもちゃを買ってあげる	a b	a b	A B「やる」	C A B「やる」
48 私が作ったお弁当	a b	a b	A B「弁当」	C A B「弁当」
49 私の家の近所に道ができる	a b	a b	A B「近所」	C A B「近所」
50 私は迷惑をかけないで下さい	a b	a b	A B「迷惑」	C A B「迷惑」

定した相手の性別・年齢、場面などの組合せによって、さまざまに展開させることが可能であるが、ここには顕著にみられた傾向のみを述べることにする。

当然予想されることながら、美化語の使用は女性の場合に多くなりがちであろうし、聞いて違和感がなくとも、自分で話す段になると使わないということがあってよいと思われる。ここに注意すると次の六類に分けられる。(図2参照)

- A 完全な美化語とみなせるもの
 - B 男性のみが使用に際して躊躇するもの
 - C 男性女性ともに女性に許容するもの
 - D 男性のみが女性に許容するもの
 - E 女性のみが女性に許容するもの
 - F 男性女性とも美化語として認めないもの
- A (「お茶・お菓子・お昼・お鍋」) は、慣用化のあまり「お」を付けない形が用いられないか、または「お」を付けることによって意味上の限定ないし変化を起こしているか、起こしつつあるものである。また「あげる」もこれに属す。B (「お米・お餅・お店・お小遣い・お水・お赤飯・お弁当」) では、男性が男性の使用に違和感をもつ場合も含む。C は女性自身が使用に躊躇しないもの (「おそば・お風呂」) と、使用に際して躊躇はするが女性から聞いても違和感なしとするもの (「おけいこ・お料理・お布団・お食事・お裁縫・お友達・お手伝い・お菓・お買い物・お部屋・お勤め・いただく」) とに分かれる。D には「お話・お庭」が、また E には「お手紙」が入る。F (「お電話・

図2 〈調査語の分類〉

A. 完全な美化語とみなせるもの	4. お茶 9. お菓子 15. お昼 23. お鍋 40. えさをあげる 47. うちの子に…してあげる
B. 男性のみが使用に際して躊躇するもの	2. お米 16. お小遣い 20. お店 22. お水 28. お餅 45. お赤飯 48. お弁当
C. 男性女性ともに女性に許容するもの	1. おそば 3. おけいこ 5. お料理 6. お風呂 8. おふとん 10. お食事 14. お裁縫 18. お友達 21. お手伝い 25. お菓 30. お買い物 37. お部屋 43. いいただく 44. お勤め 49. ご近所
D. 男性のみが女性に許容するもの	31. お話 41. お庭
E. 女性のみが女性に許容するもの	33. お手紙
F. 男性、女性とも美化語として認めないもの	7. お電話 11. お洗濯 12. おビール 13. お洋服 17. お写真 19. お席 24. お引っ越し 26. お荷物 27. お味見 29. お献立 32. お二階 34. ご本 35. お勉強 36. おめがね 38. お帽子 39. お道具 42. お大根 46. ご様子 50. ご迷惑

お洗濯・おビール・お洋服・お写真・お席・お引越し・お荷物・お味見・お献立・お二階・ご本・お勉強・おめがね・お帽子・お道具・お大根・ご様子・ご迷惑」は尊敬語としての用法はあつても、美化語としての定着にはまだ間のあるものであらう。(図3 参照)

以上からいえることは、男性の意識としての美化語使用が低調で、女性がこの分野の主導権を完全に握っているということである。

つぎに調査語の範囲でいえば、約半数の語がいわゆる美化語とみなされるもので、意識を問う限りでは過剰使用の程度も低く、かなり控え目に答えていることがわかる。しかし実際には、Fの諸語が美化語として口頭にのぼることも珍しくないであらう。

さらにDに端的にあらわれているように、女性自身が女性から聞いて違和感を感じるような場合でも、男性は女性の使用を許容する傾向がみられる。個別的にみると、女性から聞いた場合に、男性よりも女性の方が違和感をもつという語が多い。逆にいえば、男性は女性の美化語使用に甘い見方をしており、むしろこれを期待する傾向があると考えられる。一方男性は、使用はもちろんのこと、男性から美化語を聞いたときは、きわめて多くの場合に違和感を感じるようで、ときにBの一部では女性の期待以上に厳格な姿勢をとっている。

このことは、女性は美化語を用いて上品な話し方をすべきもの、男性は美化語など用いずに率直な表現をすべきで、いたず

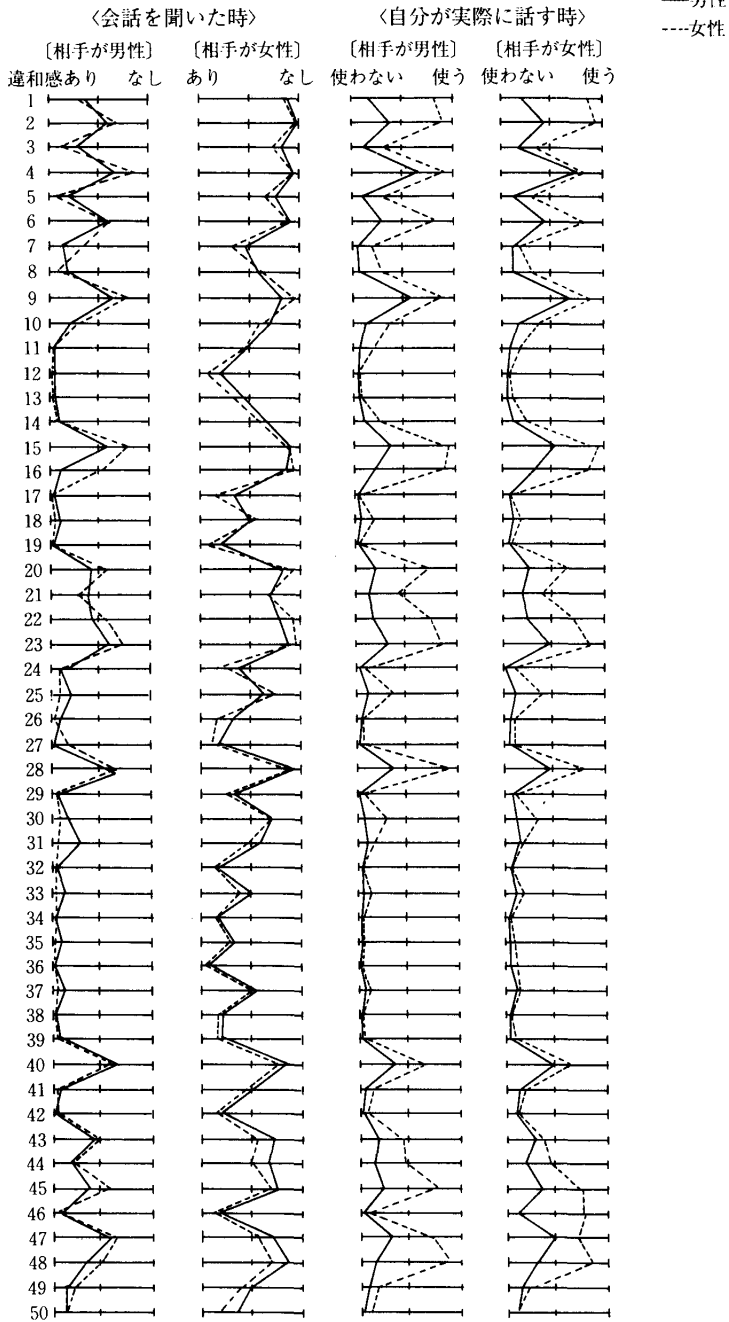
らに品の良さを求めてはならないという、社会的規範が実際の言語生活以上に、人々の意識の中に強固に根付いていることを物語るのではないか。

さらに年齢によって、中学生(十代半ば)・高校生(十代後半)・大学生(十代後半～二十代前半)・社会人(主に三十～七十代)の四層に分けて考察すると、右の社会規範の影響は社会人層より顕著である。

また、若年層(中学・高校生)と社会人層との間で傾向の異なる語があることに注意する必要がある。本来、美化語は話し手自身の品位の保持を目的として用いられるものであるから、品位が重要な社会的環境に生活している社会人層において、より頻繁に用いられて当然である。しかるに若年層の方がより多く用いる美化語があるとはどういうことであらうか。

具体的に例を挙げれば、40番の「大にえさをあげる」、47番「うちの子におもちゃを買ってあげる」について、社会人層では女性から聞いたときにのみ違和感なしとするのに対して、若年層では全ての場合にこれを認めている。この理由は容易に想像できる。すなわち、社会人の年齢の者には、このような用法は誤用に近いのである。犬などの動物に謙譲の要素の濃い表現を用いるのは無教養であるし、自分の子に対する敬語的配慮を他人に聞かせるのも無作法きわまりない。そのような規範が年配の層にある。これが影響しているとみる。これに対して、若年層ではそのような教養や作法とは無縁である一方、彼らにとつては、社会人層が敬語的に中立として判断している「やる」とい

図3 男女別集計



うことが、すでに敬語的マイナスの方向に動いているのである。したがって「あげる」は、彼らにとって美化語というよりも、もはや普通語に墮した。そこに、このような逆転現象が生じた原因がある。

また、同様な傾向は「お話」「お庭」にもみられる。この説明は「あげる」のように容易でない。しかし、調査項目をみると、「私のお話を聞いてください」、「私の家のお庭」といったもので、社会人層には「私の」という部分が強く意識されたことが、自分の側のものに敬語的にプラスの表現を躊躇した理由に相違ない。もっとも、これを詳細に見れば、社会人層でもとくに女性自身が自分でいうこともしないし、女性から聞いても違和感があるとしているだけで、男性の側からすればなんの違和感もなく、実際は多く口頭にはと考えると考えられるので、これは被調査者の質の問題ではないかと思われる。すなわち社会人層の女性の多くは、今回の調査では大学解放実践センターの受講生であり、普通以上に向学心に燃え、また教養や品位を重んじる方々であったと想像される。そのことが、この項目においてやや慎重な態度をとらせただけではなかっただろう。

しかし翻って考えてみれば、上品な言葉を使おうという必要や欲求が、社会人層に当然のものである一方で、かつて尊敬語であり謙譲語であったものが、その敬意を捨てて単なる美化語として用いられ、さらには普通語の域に達するということは、言葉の時代的推移の常であって、なんら異とするに足りない。年配層において躊躇されていた美化語も、若年層の手にかかれ

ばいともたやすく美化語として用いられていくのが普通である。ただ美化語というものの性格上、その傾向が今回の調査ではみえにくかったのだと考えてよいのではないだろうか。

以上、美化語についての意識調査に基づいて考察した結果の一端を述べてみた。

(付記) アンケート調査に御協力くださった方々は、次のとおり

です。厚く御礼申し上げます。

富田中学校・徳島中学校・徳島商業高等学校・徳

島市立高等学校・城ノ内高等学校の生徒のみなさん

徳島大学解放実践センターの受講生のみなさん

徳島大学の学生のみなさん

(もりさね・みわ)

会員募集

徳島大学国語国文学会は、国語国文学・中国文学・国語教育の研究ならびに会員相互の親睦をはかることを目的に、昭和六十二年十月に発足しました。この趣旨に賛同なさる方なら、どなたでも御入会になれます。本学会では、一年に研究会二回、機関誌『徳島大学国語国文学』発行一回、『会報』発行二回を計画しています。会費は、三千円(年間)。このほかに入会金として二千円をいただきます。